

No. 37		2024年 8月 11日	
三位一体後第十一主日礼拝			
説教『神に義とされた者はどこにいる？』			
		山根 眞三 師	
司会		吉丸 初美 さん	
奏楽		白石 百合子 さん	
招詞 エペソ人への手紙2章4～10節			
主の祈 (564)			
讃詠 5 4 6			
交誦詩編 詩 1 4 5 編			
祈禱			
讃美歌		21 - 1 6 0	
使徒信條 (566)			
聖書 ルカ福音書18章9節～14節			
説教 (口語訳120頁、新共同訳144頁)			
『神に義とされた者はどこにいる？』			
祈禱		美 歌 2 7 1 (Sec.T)	
献金		感謝 告 5 4 4	
報栄		祝 禱	
後奏			
次週の礼拝 (三位一体後第十二主日礼拝)			
説教『サウロよサウロ、あなたはなぜ…』			
使徒行伝 9章1節～20節			
招詞マルコ福音書7章32～35節/交誦詩篇147編			
讃美歌 546、21-149、280、539			
礼拝当番			
今週 11日 司会 吉丸さん 献金 剛家さん			
次週 18日 司会 根角さん 献金 高橋さん			
会堂清掃奉仕 8月16日(金)			
午後4時～ めぐみ幼稚園保育者			

本日の集会			
★教会学校		午前9時45分	
★コーヒータム		礼拝後～	
それぞれの思いを語り合しましょう。			
★『障害者と教会』問題を考える集い委員会		午後2時～ 於：広島西部教会	
今週の集会/スケジュール			
次週以降のスケジュール等			
★第57回「敗戦の日・追悼と平和を求める集会」			
8月18日(日)14:00～16:00			
会場：広島流川教会			
講演『核被害者と共に生きる』 森瀧春子さん			
●レコードコンサート 8月18日(日)13:00～15:30			
ブラームス 交響曲第4番ホ短調作品98			
ハイドンの主題による変奏曲作品			
ベートーヴェン 交響曲第7番イ長調作品92			
S広島拘置所教誨奉仕 8月21日(水)13:30～16:00			
施設にある方の信仰生活を覚えてお祈り下さい。			
S部落差別の現実と差別禁止条例について考える第7			
学習会 8月25日(日)14:00～16:30			
会場：広島弁護士会館、資料代：500円			
講演：部落差別の現状と差別撤廃 野田末廣さん			
★西分区・流川教会共催夕涼み会 8月25日(日)			
15:30～ 広島流川教会の室内で親睦、ゲーム			
をした後、庭でバーベキューを実施するそうです。			
◎小野紀美子さん 寄せ書きへの感謝の葉書が			
届きました。ありがとう。			
◎高橋圭子さん 礼拝欠席連絡がありました。			
◎山根由美子さん 新しい抗がん剤治療に移るため			
14日から2～3週間入院されます。お祈り下さい。			
先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	4	12	16

◇今週の説教要旨(三位一体後第十一主日礼拝)
『神に義とされた者はどこにいる？』ルカ福音書18:9～14
広島と長崎の原爆慰霊平和祈念式典の違いがあった。長崎はイスラエルを式典に招待しなかった。この状態に対しての反応を私たちはどう理解すればよいのだろうか。私の率直な感想は、大使の出席を辞退した国々の平和への感性に疑問を抱いてしまう。パレスチナでの死者はおよそ40,000人を超えている。イスラエルのこのような行為をナガサキは認めることができるだろうか。私にはヒロシマが何故これをしなかったのか理解できないのだ。イスラエルがヒトラーによってあの虐殺をされていなかったのら考えられないこともない。昔の偉大な王ハムラビが報復は過剰であってはならないと目には目、歯には歯と教えた。人々はこの教えを大切にしながら、イエスはさらに右の頬を打たれれば、左の頬を出せ、悪人に手向かうな、敵を愛し、迫害する者のために祈れと教えた。だからイエスはイスラエル人から拒絶され、十字架に架けられたのだろうか。ヒトラーは独特なキリスト者だった。こんなイエスを十字架に殺した民族を赦すことが出来ず虐殺へと走った。その悲しみと絶望を経験した民族がどうしてガザの子ども達、人々を殺すことが出来たのだろうか。人は自分の存在や行動の正しさを肯定するだけではなく、誇って他者を見下げることがある。私にはそれがイスラエル民族とパレスチナの人々のように思えるのだ。イエスは当時のユダヤ社会でどのように生きている人々のことを語った。取税人は民族の中では徹底して差別されていた。その仕事の故に彼は神に愛されない者として排除すらされていた。神を求める者として彼は精一杯求めた。神の前で徹底して謙虚だった。イエスはそのような二つの姿を人々に示した。神に受容され、愛される者として生きたのは、パリサイ人のように自分で自分を義とするものではなく、徹底して謙虚だった取税人なのだ。